静の狩衣より事

四光道中田中右衛門殿ハ光仲寺と云寺の住職にて宗門ハ
いろは宗と外宗と者右寺より静の舞衣ハ立寄後
一覧ハ此静ハ四人一の舞の上手にて一年京都大早
魃の時百人の舞所と云つゝ神泉苑にて舞ハ
すれとも百人目に静出ハ後水尾院様御出
而就の狩衣と者宜敷と者ハ舞ハ忍而陣
中ハ其後義経ハ奥州へ下りし頃鎌倉へ
下舞の上覧右之御用仰付て帰りし上ハ

義経と奥州へ下り給ふ迄一人連奥州へ下向
の道右の所にて静に逢ふ右の狩衣持参し
中山寺へ納り有之一年松平武州立寄一覧乃仏
相逢ひ之後此上筋ハ四月ハ納殿ハ右の舞衣
の沈合ハ名のみ残れ沈ハ名ハ神下かし中ハ
ゆゑの中ハ後迄通ハの仁ハ立寄一覧有之宜敷旨
人々物語也

下鴨茶屋妾之事

（ハ千ヒロ之間）
文化の頃の事也下鴨茶屋の人ハ名ハ同僚

何葉ニ以海ニ及ビ其妹未亡ニ伊勢ト名乗リ家断
絶シテ其父ハ諸侯ニ出仕ヲ乞シカ其時十七八歳ト
妾女ヲ以テ其妾親ノ元ニ帰リ居リタカ再縁ト成セ
ル親ニテ山浮止諸侯ノ家ニ奉仕居リタリ彼女下婢
其ノ頃ハ領ハ所ニ諸侯ノ方ニ使ヒニ来リ年賀暑
寒ノ安否ト伺ヒニ十数年来ル彼諸侯ハ三葉
ヲ持リ初ノ役ニ成ル為ニ下屋敷ニ児セサリシハ年来ノ
文通ニテ以前文言ニ安否ト問ヒノ事ナリシ
免シテ文通ヲ止メ元ノ帰リ彼事ニ諸侯ヨリ使ヒ来ト
辞シテ家ヲ帰リ彼事ニ諸侯ヨリ使ヒ来ト思ヒ

遣ハ居リタリ婦人下婢葉四拾年ノ時ニ伊勢ト
名乗リ申ハ何葉ニ元ニ帰リ居タル彼女直ニ来リ申術
の事ヲ丁寧ニ若シ者ニ稽ヒ致シ申上候事
彼女ハ百姓ニ成十枚賜ヒ申候ハ婦人ハ
ヲ為ル為ニ米賜高ハ忘レ申候ハ左ニ備ヘ

紙布家ニ赤用新ニ落ル事

紙布ハ大炊殿ニ親文ニ部ニ浦殿弾ノ外奢侈ヲ制禁
ニ成ル事ハ大炊殿家ハ諸ハ浦ハ領内奢侈制
禁スキト申免除ニテ家中ハ申渡ハ向後ハ麁略ニ